

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表：令和3年3月29日

事業所名 いろえんぴつ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		床にジョイントマット等を敷き詰めて安全を確保している。	訓練室は、利用定員が安心、安全に活動できるスペースが十分確保されている。
	2 職員の配置数は適切である	○		適切に配置されている。	必要に応じてOT、PT、STを配置する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		バリアフリー化は大部分なされている。	生活スペースに目的別にパーテーション等で仕切り構造化をはかる。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	職員全員にそれぞれ自由に目標を設定してもらう。	設定目標の達成の為にどうすべきか職員全員で話し合う。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送迎時になどにヒヤリングし、意見を聞き取る。	定期ミーティング等で問題点の改善を検討する。保護者に評価表の意見欄に記載することは適切な児童支援に役立つことを理解してもらう。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		何の評価表なのか分かりやすくする為に説明書きをする。	広く意見を聞き取るためにホームページ上の公開をする。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	日々の活動をブログに掲載し幅広く意見を聞き取る。	他の施設とも交流を深め、見学、研修等、積極的に意見交換し、業務改善につなげる。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員のスキルアップの為に費用は、上限を定め事業所が負担する。	資格習得、外部研修の機会は積極的に確保する。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントシートを使用している。	保護者からのヒヤリングを徹底し、アセスメントシートを完成させ、問題点を把握し、必要なサポートを考案している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		常にアセスメントの見直しを心がけている。	外部の資料も参考にし、標準化されたものを使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている		○	常に職員全員の意見を取り入れるようにしている。	発想が固定化しないように常に職員全員参加型で立案に携わる。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	常に児童の意見を取り入れるようにしている。	遊びから学べるよう、児童の意見も聞き入れて固定化を防ぐ。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	児童の考え意見も積極的に取り入れる。	平日、休暇で活動内容は異なるが長期休暇に関しても改めて課題、活動プログラム等を設定する。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		職員は、各児童の特性を把握しておく。	児童の特性に合わせ、個別と集団を適宜組み合わせている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	職員は、その日利用する児童の特性を、確認しておく。	週1回の打ち合わせを毎日に変更する。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日々の支援で気付いたことはグループLINEにUPしている。	その日気付いた問題点等は、当日、又は翌日には必ず、職員全員で共有する。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の支援で気付いたことはグループLINEにUPしている。	事業所としては、LINEの内容等を元に日報を記載し、後の支援の検証、改善に繋げる。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		児童によって定期期間を変更している。	児童の特性によっては定期期間を1ヶ月に定め、支援計画の見直しを考案している。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		職員はガイドラインを熟読している。	ガイドラインの基本活動を中心とし、複数の組み合わせで支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		職員は特定の児童に支援が偏らないように努力する。	その児童の特性を最もよく理解していると思われる職員が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時などの時間も利用している。	常に連携をとり情報交換を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		初回フェイスシート作成時に医療機関等の連絡先等は必須項目にしている。	保護者を通じ、何時でも連絡をとれる体制をとっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前に利用していた施設は、フェイスシート作成時に把握している	必要に応じて、情報提供及び、情報の提供をしてもらい相互理解に務める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		卒業後の進路は必要時に、保護者と相談する。	現時点で、対象となる児童がいらないが、必要な場合は情報提供する。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の施設からの発信を積極的に受信するようにする。	他の施設とも積極的に連携、見学、研修等を行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		障がいのない子供と触れ合う機会を定期的に設ける。	障がいのない子と活動する機会はあるが、児童館等、他の施設との活動機会も増やす。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		部会の参加はするようにしている。	もっと積極的に、協議会等へ参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時の時間を利用し意見交換するようにしている。	日々の児童の活動や変化については、電話、SNS等で、情報伝達し、保護者との間で共通理解を持っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		家族支援プログラムについての研修をする。	現時点では、行っていないが、その必要性から今後は外部研修等に参加していく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		説明後、不明点等の質問を受け、再度説明するようにしている。	特に児童の利害、保護者の負担にかかる重要な事柄については、重点的に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からは、適時にLINE等で、悩み、相談等は受信している。	訪問、来所、電話、LINE等で必要な助言を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者参加型のイベント等を行う。	保護者同士の連携、支援の為の仕組みを構築させる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		子どもからの苦情はいつでもどんな時でも良いと周知徹底している。	児童、又は保護者(苦情専用番号の設定、各保護者の9割以上とLINE交換している。)からの苦情には、迅速かつ適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		連絡帳を必ず読んでもらえるように、記載内容が固定化しないよう考案している	保護者への情報発信については、一斉メール、又は連絡帳を通じて発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きの書庫や、パスワードを使用している。	保護者の許可なく、又、支援の目的以外で、外部漏洩することがないよう厳重に管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ゆっくり、わかりやすい言葉、マクソンサイン、絵カードの使用。	視覚、聴覚をつかった情報伝達を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		日頃から挨拶等を心がける。	地域住民参加型イベントの開催を考案する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	子ども110番に加入している。	マニュアルは作成している。訓練実施を定期的に行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	地域の消防署から訓練実施指導を受ける。	半年に1回の訓練実施を行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	職員の過度なストレスを回避する為、個人的な悩み、相談事についても話し合う機会をもつ。	虐待防止に関する研修等は、事業所が十分に機会を確保し職員に研修させることとする。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	日々、児童同士その特性を理解しあえる環境づくりを考案している。	当該児童、他の児童に危害が加わる恐れがある場合の最終手段として考えられるが、現時点において当事業所では、明確な基準は設定しておらず、拘束はしない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	初回面談時に作成するフェイスシートの必須項目になっている。	現時点で対象児童はいない。アレルギーは、保護者からのヒヤリングによるもので対応しているが、医師の指示書が必要な児童に対しては指示書通りの対応を行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	その都度報告するようにしている。	各自がグループLINE等にUPして職員全員で共有している。今後は、事業所として事例集を作成し、対策を考える。